

# 「被災地はいま、備後・安芸」

備後教区仏教壮年会連盟理事長

甲田 正規



昨年7月の豪雨災害によって西日本各地で多く方が被災されました。私の所属する備後教区では、寺院被害多数、お亡くなりになられた門信徒も16名という大きな被害となり、大変心を痛めております。教区内で一番被害の大きかった倉敷市真備町では、現在、氾濫した河川の復旧、被災家屋の取り壊しや修復が行われており、仮設住宅での生活を余儀なくされている方々が多数おられます。

す。私たち仏协会会员としては、2020年の備後教区引き受けによる「全国仏教壮年備後大会」が、この災害で被災された方々を勇気づけ、復興に向けての活力となるよう全力で準備してまいります。皆さま、どうぞご参加ください。

安芸教区仏教壮年会連盟理事長

森下 洋壮

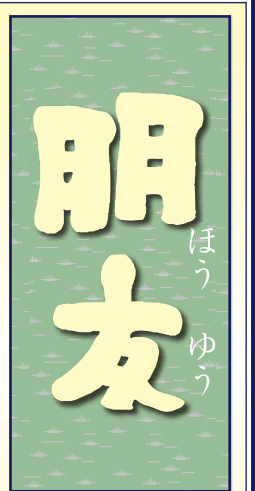


朋友第21号にて、平成30年7月豪雨災害の被害状況と、広島別院に「安芸教区災害ボランティアセンター」での支援活動が行われたことの記事が掲載されました。

私も及ばずながら、このボランティア活動に参加させてもらい、現地では新築のようなきれいな家の中まで砂と瓦礫で一杯の家ばかりで、被災者のお心をお察ししたことでした。被災者の方（「門徒さん」と面会し、広島別院からのボランティアと分かつと、これ以上ない感謝の気持ちで



述べられた姿が印象的であり、その日の活動の原動力となりました。もう一点印象的であったことは、ボランティアに参加された方々が、すべて全国の別院またはお寺経由で参加されていたため、皆さんがお念仏申す方たちばかりであることの歓びと、短い時間ではありましたが、参加者同士の絆ができたことでした。現在の気象状況は、将来いつどこで大きな災害が発生するかわかりません。災害被災地の別院で「災害ボランティアセンター」が設置されたならば、ご門徒さんの救助は阿弥陀さまの願いと思われ、ためらわず参加していただきたいと思います。くしくも平成30年度は、私ども安芸教区仏教壮年会連盟結成40周年の年であり、忘れることのできない年となりました。



第22号

2019(平成31)年  
3月::日発行

発行所

京都市下京区堀川通り花屋町下ル  
仏教壮年会連盟広報委員会

題字：理事長 宮南 靖

「朋友」とは、同信のなかま。2008(平成20)年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏协会会员が力を合わせ、ともに歩を進めていこうという願いから名づけられました。

## 「念仏者」って誰のこと?

仏教壮年会連盟講師

谷間

徹誠



私たちの宗門にご縁をいただくお互いは今、「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」にご門徒僧侶が一丸となって取り組んでいます。その運動は、ご門主さまが先年にお勤め下さった伝灯奉告法要、その初日にお聞かせ下さいましたご親教「念仏者の生き方」のお示しを体して展開されていることは周知のことでありましょう。ところで、皆さんは「念仏者」って誰のこと?と問うてみられたことは有りませんか?

私にはこの問いが、自分の中の大きな拘わりとなりました。語意としては「阿弥陀さまの本願名号を聞信して念仏する人」なのでしょうが、そうすると、お衣・お袈裟を頂きながらも日々聴聞を怠り、ご報謝の念仏申すいとまも無く、身過ぎ世過ぎにあけくれている私自身は「念仏者」には該当しないのか?念仏の声無き周囲を見回しながら「念仏者」居たら出てきて!と焦りの渦の深い淵に沈みかけた時が有りました。そのような私が「本当の念仏者」に逢える、より良き示唆を得ることができました。それは、龍谷大学の久松英二教授の書かれた「阿弥陀如来に助けられて、自己中心的なものから見方から脱却し、中心を向こう側の如来の眼差しに置き換えよと説かれる親鸞聖人のみ教えは、知れば知るほど深く共感するものがあります」という一節でした。そうでした、私の側からの「念仏者」捜しではなく、如来さまの眼差し、「光といのちきわみなき



阿弥陀ほとけ』の限りなく明るい智慧の眼に見抜かれ、「我身しらずになるまいぞ!」とお照らし下さつてあつたのです。聴聞の座に坐ることを怠り、念仏申すことを忘れたまま迷いを生きつつある自らに気付き出会うことが大事だったのです。 「念仏者」とは「仏二念ゼラレタル者」と読み替えれば「拯われてくれよ・お願いだから我に汝をタスケさせよ」と、忝くも阿弥陀さまより念じつめられていた「私と貴方」に外ならなかったのです。

### ●おわび●

前号につきまして訂正が御座います。ご迷惑をおかけ致しましたことを深くお詫び申し上げます。

第21号 新規登録単位会

長野教区 稱明寺 〇×

稱名寺

### ◆本年度新規単位登録名簿

2018(平成30)年9月1日〜

2019(平成31)年3月31日

教区 北豊

組名 上毛

寺院 善正寺

単位会名 善正寺仏教壮年会

登録単位数 2547単位

### 仏教壮年会連盟 会員式章

●価格2,160円(税込)

●本願寺出版社にて販売

●委託販売可能



### 仏教壮年会連盟 会員式章入れ

●価格3,086円(税込)

●本願寺出版社にて販売



# 2018(平成30)年度 仏教壮年会連盟「中央研修会」開催報告

仏教壮年連盟評議員(福岡教区)

研修委員会委員 末松 義成



2019(平成31)年2月16日(土)〜17日(日)にかけて、伝道本部と聞法会館において「中央研修会」が開催されました。

全国24教区より44名の仏教壮年会員の参加を頂き、講師、連盟理事、研修委員含めて約60名が熱い思いをこめて、2日間語り合いました。

1日目は、伝道本部で受付後、緊張の中、開会式に臨み、司会は、甲田副委員長に務めていただき阿部総務、宮南理事長からご挨拶をいただきました。

開会式終了後、平澤研修委員長から「研修のねらい」の話がありました。続いて大原連盟講師の法話より「人はそもそも欲の深い凡夫であり、死ねば仏になれるものでない。では仏さまの姿とは何か。優しく、思いやりのある人であると考える」



また、「恩報謝の日暮らしをさせてもらったらどうか」といただきました。続いて義本連盟講師より「私とお寺と若者との縁のひろげ方」ということで問題提起がありました。

「聴聞とは、学ばせて貰っていることなんだ。お互い同士悩みを語り合うことも大切である」というお話があり、7班に別れて話し合い法座が開かれました。各班からそれぞれ発表が出され、仏教壮年は、楽しくなければならぬ。自他共に幸福を感じられるか、自分の身近な事など話す仲間がいるか云々、また、お寺行事のお手伝い、イベント企画や法座や勉強会、グラウンドゴルフ大会、ボーリング大会、広報誌、SNSの投稿作成とさまざまな活動を行っていることに驚かされた。



一方で過疎のため子どもたちが少ないお寺も多くあることをよく理解できました。

夕食後、常例布教をお聴聞し、その後は懇親会を班ごとのテーブルで行いました。

各地より持ち込んだ地酒を酌み交わしながら、笑顔の歓談で交流を深めることができたと思います。

2日目は、晨朝参拝、希望者は帰敬式。大原講師より法名についての法話。全体会では、座長を長尾副理

事長に務めていただき、事例発表を前田副理事長、平澤研修委員長からお話、参加者の東京教区亀井さん・東海教区種村さんから力強い発表がありました。

最後に義本講師より「仏教を通して集まる場所、温もりのある自分の居場所があるかが大切である。

まず、自分自身がつこり笑顔で挨拶から始めてみたら変わってくるのではなかいか」と「まとめ」ていた



だき、研修会を無事終えることができました。

最後に、参加者の皆さま、本研修で学ばれたことを通じて、各教区、単位会でご活躍されることを念じあげます。私も研修委員も仏教壮年会の朋友の輪が広がりますよう頑張る所存でございます。

## 研修会を受けて…

・他教区や組における活動状況を知ることができた。今後の活動の参考になればと思う。

・県外からの仏壮の方々とお話ができ、大変感動と、よろこび、悩みなどお話できてよかったです。今後も仏教壮年会をたのしみに行っています。

・仏壮のあり方は地域もあり、簡単な問題ではないと思う。しかし、活力のある世代が中心になって仏壮を進めないと先行が心配だ。

・判別討議については、各教区代表者(出席者)から貴重な意見交換ができて、大変有意義な会であった。

・全国の仏壮の活動を具体的に聞く事ができて良かったです。もともとと会を盛り上げられるよう、私個人も努力してゆきたい。・各人それぞれの環境での悩み等がそれぞれにあり、自分は恵まれていることに気付かされる一面があり良かった。



今回の研修会で他教区の方と意見交換することにより今後の活動にはずみがついたようです。